

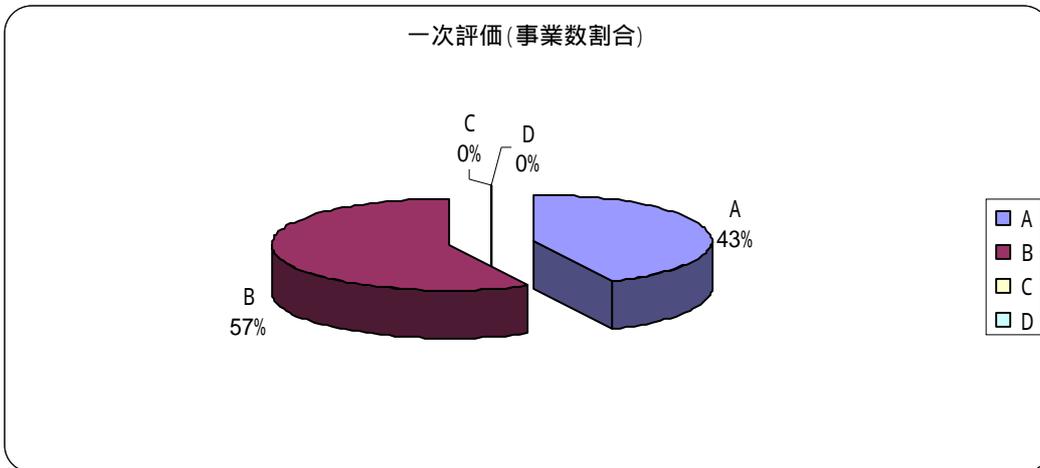
## 4 評価の結果

平成20年度評価の結果は次のとおりです。

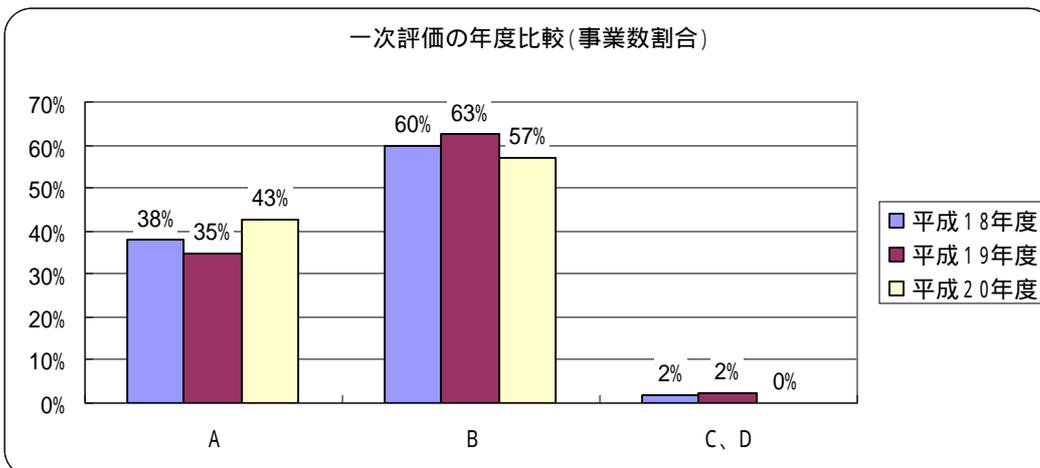
### 一次評価

一次評価は、事務事業を所管する部署の所属長が、下表の基準で総合的に判断し、A > B > C > Dの4段階で評価しています。

評価	基準
A	順調に進み、想定した成果も上がっており、効率的で、手段、対象も妥当な事務事業
B	順調に進み、想定した成果も上がっているが、コストなどまだ改善余地のある事務事業
C	前年並みの実績は残したものの、思うような進展が見られず、事業の見直しを必要とする事務事業
D	思うような進展が見られず、事業の統合や廃止に向けた検討など、大きな見直しを必要とする事務事業



全事業において、A評価及びB評価であった。

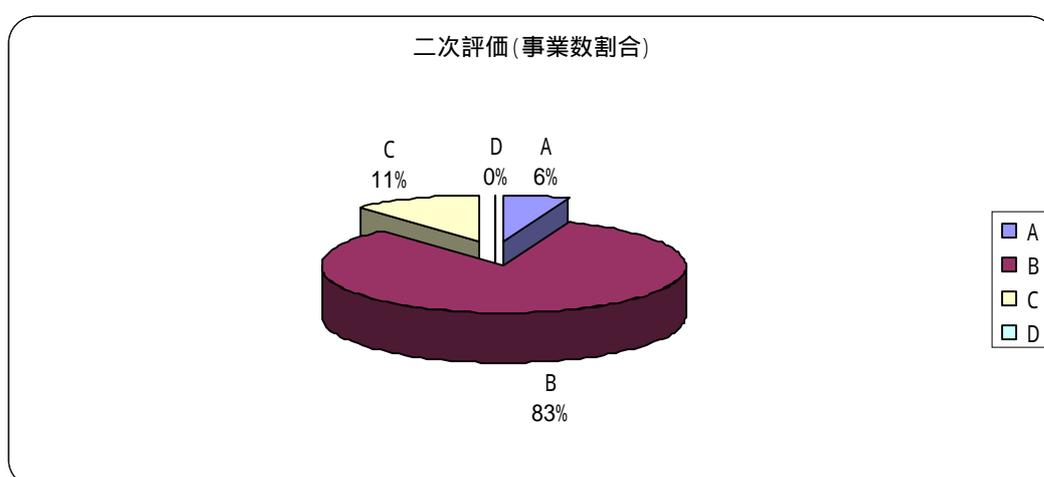


年度ごとに評価の対象とした事業及び事業数が異なることから、そのままの比較はできないが、前年度に対してA評価が増え、B評価が減り、C、D評価はなくなった。

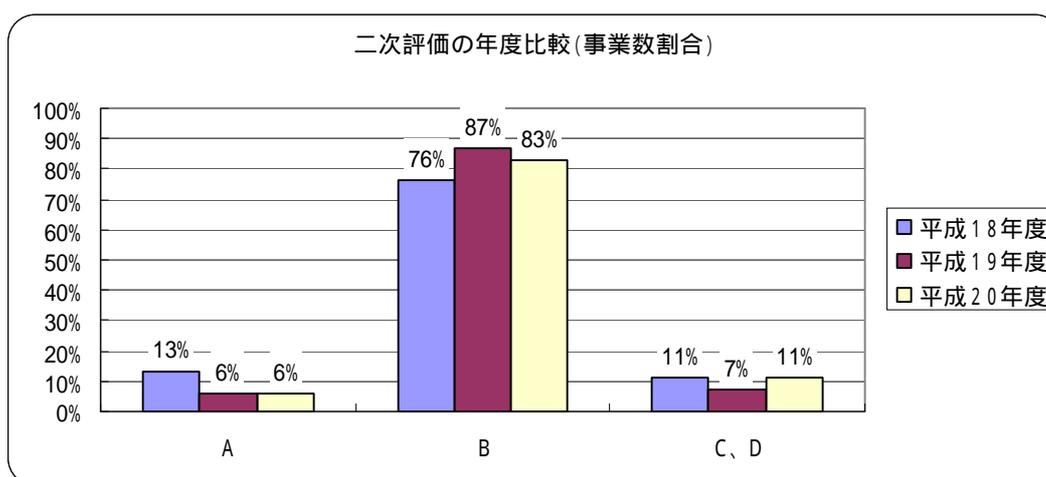
## 二次評価

二次評価は、御殿場市行政評価委員会が、一次評価と同じ下表の基準で客観的に判断し、A > B > C > Dの4段階で評価しています。

評価	基準
A	順調に進み、想定した成果も上がっており、効率的で、手段、対象も妥当な事務事業
B	順調に進み、想定した成果も上がっているが、コストなどまだ改善余地のある事務事業
C	前年並みの実績は残したものの、思うような進展が見られず、事業の見直しを必要とする事務事業
D	思うような進展が見られず、事業の統合や廃止に向けた検討など、大きな見直しを必要とする事務事業



B評価が圧倒的に多く、次いでC評価、A評価と続く。D評価はない。



昨年度と同様にB評価に集中している。A評価は同率で推移し、C、D評価が微増した。

## 一次評価と二次評価の対比

事務事業ごとの一次評価と二次評価の対比は下表のとおりです。

一次評価と二次評価の一致率は、55%（表中太線枠内合計）であり、事務事業の担当部署による一次評価と評価委員会による二次評価との差が大きいことが示されています。

一致していない主な要因は、一次評価でA評価の事務事業に対する二次評価の差異であり、一次評価でB評価の事務事業については、ほとんどが二次評価と一致しています。

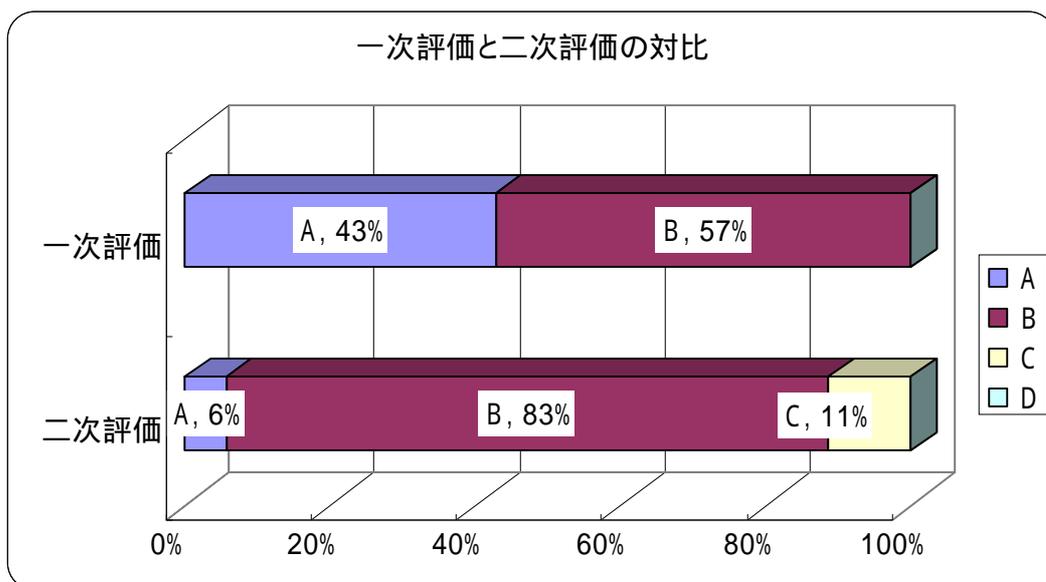
また、A評価及びB評価の合計は、一次評価では100%であり、二次評価でも89%という結果から、評価対象事務事業は、改善余地を含みながら概ね計画どおりの進捗をしているという判断が示されました。

### 一次評価と二次評価の対比（事業数割合）

一次評価 \ 二次評価	A	B	C	D	計
A	2 ( 6% )	12 ( 34% )	1 ( 3% )	0 ( 0% )	15 ( 43% )
B	0 ( 0% )	17 ( 49% )	3 ( 9% )	0 ( 0% )	20 ( 57% )
C	0 ( 0% )	0 ( 0% )	0 ( 0% )	0 ( 0% )	0 ( 0% )
D	0 ( 0% )	0 ( 0% )	0 ( 0% )	0 ( 0% )	0 ( 0% )
計	2 ( 6% )	29 ( 83% )	4 ( 11% )	0 ( 0% )	35 ( 100% )

太枠内から右上方向の数値は、一次評価に対して二次評価が低い事務事業数、左下方向の数値は、一次評価に対して二次評価が高い事務事業数を示している。

全事業について、二次評価は一次評価よりも評価が同等又は低い結果になった。



## 基本目標別の評価結果

第三次御殿場市総合計画の5つの基本目標ごとに一次評価を集計したものです。

いずれの基本目標においても、全ての事業の評価がA評価又はB評価となっています。

A評価の割合は、基本目標1で100%であり、その他の基本目標についても3割から4割程度となっています。

### 第三次御殿場市総合計画基本目標

基本目標1：富士山のように大きな心を持つ人になろう

基本目標2：健康で安全・安心な生活を築こう

基本目標3：人と自然に優しいまちをつくろう

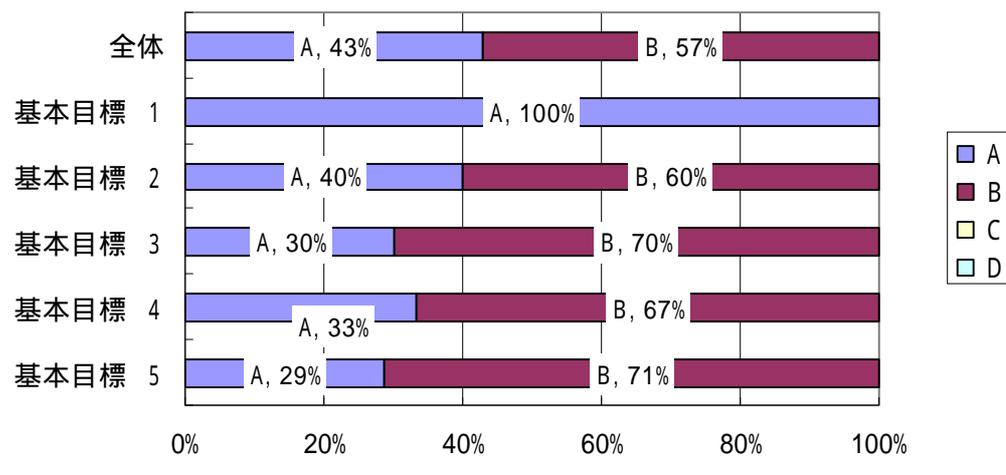
基本目標4：豊かで活力ある産業を育てよう

基本目標5：明るく元気の出る御殿場をつくろう

### 基本目標別一次評価結果（事業数）

一次評価	A	B	C	D	計
基本目標 1	5 ( 14% )	0 ( 0% )	0 ( 0% )	0 ( 0% )	5 ( 14% )
基本目標 2	4 ( 11% )	6 ( 17% )	0 ( 0% )	0 ( 0% )	10 ( 29% )
基本目標 3	3 ( 9% )	7 ( 20% )	0 ( 0% )	0 ( 0% )	10 ( 29% )
基本目標 4	1 ( 3% )	2 ( 6% )	0 ( 0% )	0 ( 0% )	3 ( 9% )
基本目標 5	2 ( 6% )	5 ( 14% )	0 ( 0% )	0 ( 0% )	7 ( 20% )
計	15 ( 43% )	20 ( 57% )	0 ( 0% )	0 ( 0% )	35 ( 100% )

基本目標別 一次評価（事業数割合）



同様に、5つの基本目標ごとに二次評価を集計したものです。

全体的には、圧倒的にB評価が多いという結果になりました。

割合で判断した場合には、A評価は基本目標1において高く、C評価は基本目標4において高いという結果でしたが、事業数で判断した場合、どの基本目標においてもA及びC評価は0又は1事業であることから、今年度の評価対象事務事業は、全体を通して概ねB評価であるといえます。

一次評価との傾向の違いは、一次評価は、A及びB評価のみで、かつ、いずれの基本目標においてもA評価が3割程度を超えているのに対し、二次評価では、A評価は基本目標1及び2だけで、割合も2割以内となっている一方で、B及びC評価の割合が高くなっています。

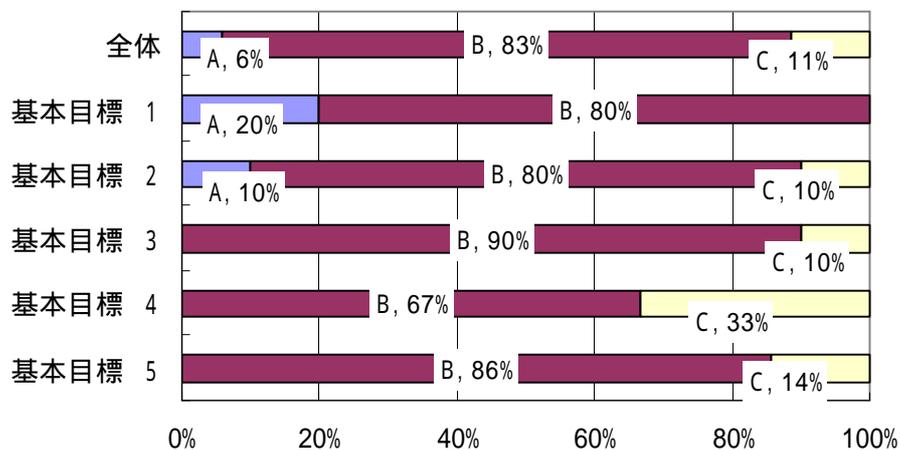
### 第三次御殿場市総合計画基本目標

- 基本目標1：富士山のように大きな心を持つ人になろう
- 基本目標2：健康で安全・安心な生活を築こう
- 基本目標3：人と自然に優しいまちをつくろう
- 基本目標4：豊かで活力ある産業を育てよう
- 基本目標5：明るく元気の出る御殿場をつくろう

基本目標別二次評価結果（事業数）

二次評価	A	B	C	D	計
基本目標1	1 ( 3% )	4 ( 11% )	0 ( 0% )	0 ( 0% )	5 ( 14% )
基本目標2	1 ( 3% )	8 ( 23% )	1 ( 3% )	0 ( 0% )	10 ( 29% )
基本目標3	0 ( 0% )	9 ( 26% )	1 ( 3% )	0 ( 0% )	10 ( 29% )
基本目標4	0 ( 0% )	2 ( 6% )	1 ( 3% )	0 ( 0% )	3 ( 9% )
基本目標5	0 ( 0% )	6 ( 17% )	1 ( 3% )	0 ( 0% )	7 ( 20% )
計	2 ( 6% )	29 ( 83% )	4 ( 11% )	0 ( 0% )	35 ( 100% )

基本目標別 二次評価（事業数割合）



## 観点別評価

観点別評価は、事務事業の担当者が下表のとおり必要性、有効性及び効率性の三つの観点で4 > 3 > 2 > 1の4段階の評価をしたものです。

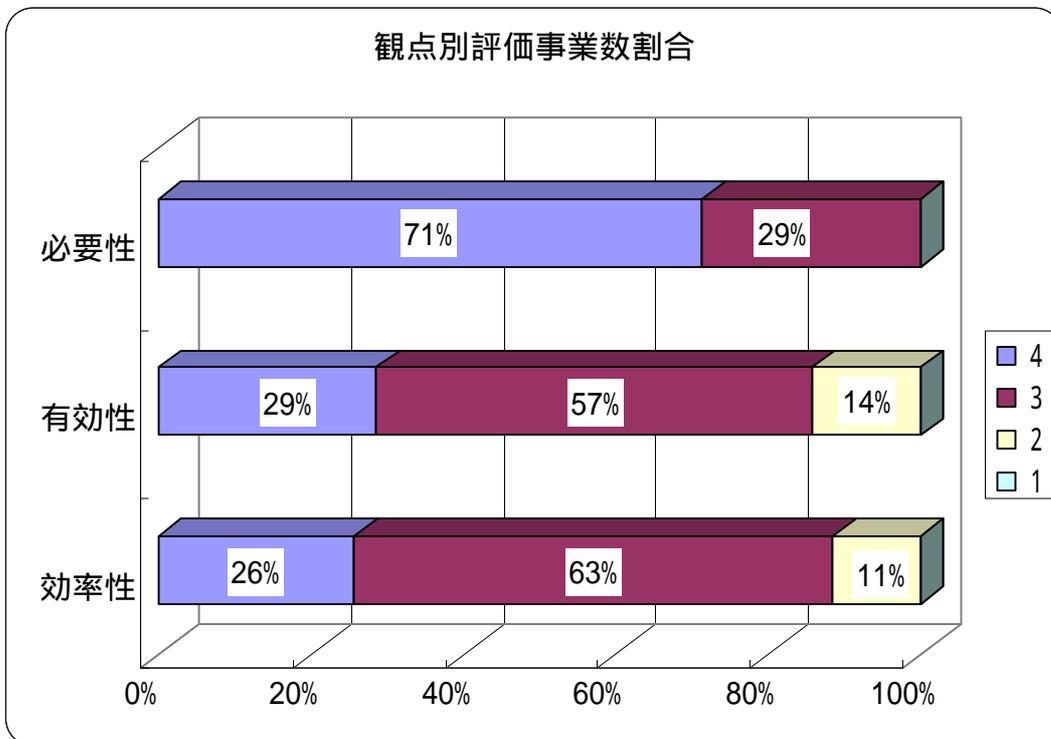
必要性においては4点評価の事務事業が多く、有効性及び効率性においては3点評価の事務事業が多いという結果が出ています。

なお、有効性については、事務事業そのものの有効性ではなく、評価対象年度の単年度実績を判断項目に照らした場合の前年度との比較で評価を行っているため、当該事務事業が有効なものかどうかという判断とは異なります。

観点	評価における判断項目
必要性	・市民ニーズ ・緊急性 ・行政関与の妥当性 等
有効性	・意図した成果の達成度 ・サービスの向上 ・手段の妥当性 等
効率性	・コスト ・受益者負担割合 等

## 観点別評価事業数

評価	4	3	2	1	計
必要性	25 ( 71% )	10 ( 29% )	0 ( 0% )	0 ( 0% )	35
有効性	10 ( 29% )	20 ( 57% )	5 ( 14% )	0 ( 0% )	35
効率性	9 ( 26% )	22 ( 63% )	4 ( 11% )	0 ( 0% )	35

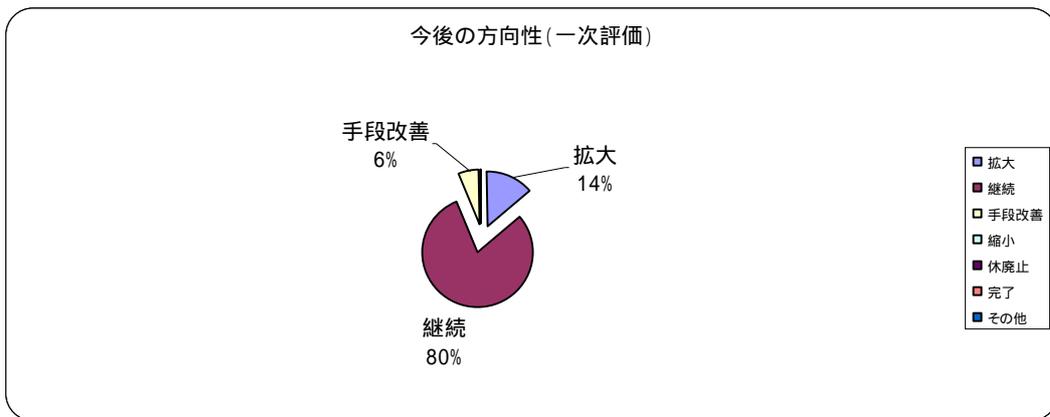


## 今後の方向性

各部署が、一次評価に基づき事務事業の今後の方向性を示したものです。継続の方向性を示した事務事業が80%と圧倒的に多く、次いで14%が拡大、6%が手段改善の方向性を示しています。

### 今後の方向性事業数及び構成比（一次評価）

区分	拡大	継続	手段改善	縮小	休廃止	完了	その他	計
構成比	14%	80%	6%	0%	0%	0%	0%	100%
事業数	5	28	2	0	0	0	0	35

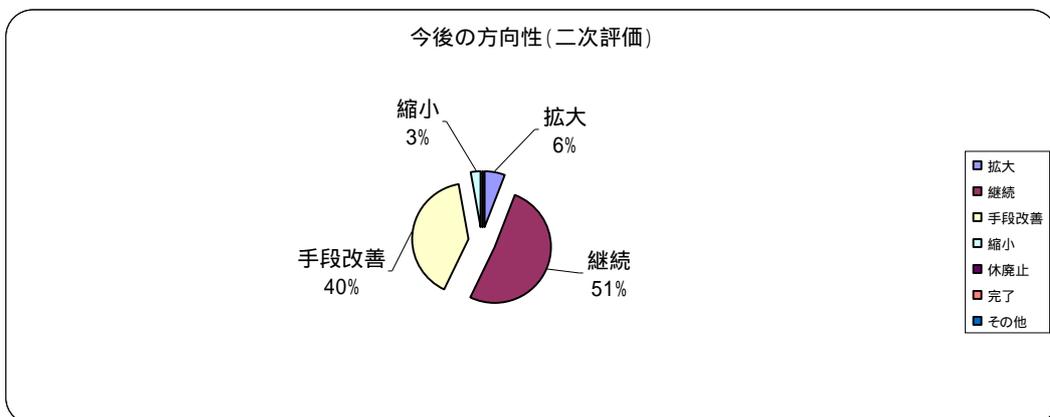


同様に、行政評価委員会が、二次評価において今後の方向性を示したものです。

継続が51%、手段改善が40%という方向性を示し、一次評価に比べ、継続が約3割の増、手段改善が約3割の減と大幅な差異が認められました。

### 今後の方向性事業数及び構成比（二次評価）

区分	拡大	継続	手段改善	縮小	休廃止	完了	その他	計
構成比	6%	51%	40%	3%	0%	0%	0%	100%
事業数	2	18	14	1	0	0	0	35



## 評価の視点について

本市の事務事業評価は、「必要性」の評価、「有効性」の評価、「効率性」の評価、「一次評価」、「二次評価」の五つから成り立っています。評価結果は、それぞれ「 」又は「A、B、C、D」で示し、 が多い、又はA表示が高い評価であることを意味しています。

観点別評価としている必要性、有効性及び効率性の評価は事業担当者が、一次評価は事業担当部署の所属長が、二次評価は庁内の次長又は課長級職員で組織する御殿場市行政評価委員会がそれぞれ行っています。観点別評価では、必要性においては市民ニーズや事業実施の緊急性はどうか、有効性においては意図した成果の結果やサービスの質はどうか、効率性においては投入コストや時間的な経過はどうかなどを可能な限り定量的、客観的に判断し、評価することを心がけています。

一次評価は、事業の内容と観点別評価結果を総合的に判断し、事業は順調に進んでいるか、改善の余地はどうかなどの基準で評価し、その判断理由をコメント欄に示しています。

観点別評価及び一次評価は、どちらも事業担当部署が客観的な視点で評価した結果ではありますが、観点別評価は、成果指標を基に限られたある一定の側面から事業を見つめ、一次評価は広い視野で事業実績を判断するというように、それぞれが別の視点、判断基準によって行われています。従いまして、観点別評価及び一次評価の結果は、必ずしも相関関係にあるとは限りません。観点別評価が高くて一次評価が低い事務事業もあり、又はその逆もあります。

また、低い評価結果であったとしても、必ずしも即縮小又は廃止という結論を導くものではなく、事務事業の有効性や効率性等を高めるための改善策である改革プランを作成し、事務事業の方向性を検討することとしております。この改革プランを実行することにより事業の効率性や成果の質をより高めることができ、その効果は次年度以降の評価結果に表れることとなります。

## 今後の評価制度について

今後の事務事業評価結果の活用方法は、実施計画の策定及び予算の編成に反映させることはもちろんのこと、事務事業を担当する部署において事業の拡大又は縮小等、今後の実施における方向付けをする資料としていくことがあげられます。

市民が求める市の政策を推進するための事務事業は何かを決定した後に、単年度ごとの実施結果を評価し、「二次評価においてもB評価以上であるからこの事業は順調に進んでいる。よって、このままの手法で進めていく。」ということにとどまらず、市民ニーズや社会情勢の変化をはじめとする市の実情、実態を総合的に判断し、その事務事業の政策に対する寄与度を推し量ることが必要です。評価結果を基にしなが、A評価であっても縮小あり、C評価であっても手段を改善して推進ありというような判断をし、限られた資源の中での事務事業の展開や取捨選択を進めることが求められます。

これらのことを受けて、平成18年度から二次評価の評価項目に組み入れた「今後の方向性」は、事務事業担当部署が事業の進むべき方向を検討するきっかけとなり、客観的な判断材料となっています。今年度の二次評価では、当該評価項目において単に方向性を示すだけでなく、コメントにも具体性を含めるように留意しました。

このように、評価と改革を繰り返し継続することにより、費用対効果の最大化を図ることが期待できます。この効果が、まさに本市が行う事務事業評価制度の意義そのものであり、今後も制度の有効活用のため、客観的評価の技術向上及び結果の分析、活用について研究を進めていきます。

評価結果一覧表

	政策番号	事務事業名	必要性	有効性	効率性	一次評価	一次方向性	二次評価	二次方向性	掲載ページ	
基本目標 1	1	1-1-1	子ども読書活動推進事業	4	3	4	A	拡大	B	継続	20
	2	1-1-2	発達障害児支援事業	4	4	2	A	拡大	A	拡大	21
	3	1-1-2	外国人英語指導助手派遣事業	4	4	3	A	継続	B	継続	22
	4	1-1-4	青少年チャレンジ体験事業	3	4	4	A	継続	B	手改	23
	5	1-2-1	家庭教育学級事業	4	3	4	A	継続	B	手改	24
基本目標 2	6	2-1-1	市民健康づくり事業	4	3	2	B	継続	B	継続	26
	7	2-1-2	乳幼児医療費助成事業	4	3	3	A	拡大	B	継続	27
	8	2-2-1	介護用ベッド等購入費・賃借料助成事業	3	4	4	A	継続	A	継続	28
	9	2-2-3	「食」の自立支援事業	3	2	3	B	継続	B	継続	29
	10	2-2-4	タクシー券助成事業	3	3	3	A	継続	C	手改	30
	11	2-3-1	国保税徴収事務	4	2	2	B	継続	B	手改	31
	12	2-3-2	介護保険料賦課徴収事務	4	2	4	B	継続	B	手改	32
	13	2-4-1	交通安全施設（歩道等）整備事業	4	4	3	B	継続	B	継続	33
	14	2-4-2	防犯まちづくり推進事業	4	3	3	A	継続	B	拡大	34
15	2-5-3	消防団活性化事業	4	4	4	B	手改	B	継続	35	
基本目標 3	16	3-1-3	公共下水道加入促進事業	4	2	3	B	継続	B	継続	38
	17	3-1-4	上水道料金収納事務	4	3	3	B	継続	B	手改	39
	18	3-1-4	上水道配水管布設等整備事業	3	2	3	B	継続	B	継続	40
	19	3-2-1	市営住宅管理事業	3	3	3	B	継続	C	手改	41
	20	3-2-2	花苗配布事業（花いっぱいまちづくり事業）	4	3	3	B	継続	B	継続	42
	21	3-2-4	中心市街地整備事業（まちづくり交付金事業）	4	4	3	A	継続	B	継続	43
	22	3-3-1	生活道路等整備事業	4	4	4	B	継続	B	継続	44
	23	3-3-2	交通量調査事業	3	3	3	A	継続	B	継続	45
	24	3-4-1	生ごみ処理容器等設置補助事業	3	3	3	B	継続	B	継続	46
	25	3-4-2	太陽光発電・太陽熱高度利用システム設置補助事業	3	3	3	A	継続	B	継続	47
基本目標 4	26	4-1-1	ごてんばコシヒカリブランド化推進事業	4	4	4	A	継続	B	手改	50
	27	4-2-1	商店街駐車場利用者助成事業	4	3	2	B	継続	C	縮小	51
	28	4-3-2	富士山ビューポイント整備事業	4	4	3	B	拡大	B	手改	52

		政策 番号	事務事業名	必 要 性	有 効 性	効 率 性	一 次 評 価	一 次 方 向 性	二 次 評 価	二 次 方 向 性	掲 載 ペ ー ジ
基本 目 標  5	29	5-1-1	市民協働担い手養成事業（市民協働推進事業）	4	3	3	B	継続	B	手改	54
	30	5-1-2	ホームページ運営事業	4	3	3	B	拡大	B	手改	55
	31	5-3-1	不妊治療医療費助成事業	3	3	3	A	継続	B	継続	56
	32	5-4-1	総合文書管理システム運用事業	4	3	3	B	継続	B	手改	57
	33	5-4-1	人材育成事業（職員研修）	4	3	3	B	継続	B	手改	58
	34	5-4-2	事務事業評価システム運用事業	4	3	3	B	手改	C	手改	59
	35	5-4-3	市税滞納整理事務	4	3	4	A	継続	B	継続	60

評価にあたっては、成果指標に基づく定量的な評価を試みているが、事務事業の性質により指標の設定が困難なものや数値の把握、目標の設定が出来ないもの、又は事業の成果が表れるまでに時間的経過を要するものなど、成果ではなく活動量の指標による評価にとどまっているものもあり、今後も検討を続ける必要がある。